とよはし歴史探訪　考古学セミナー

東三河環状線関連発掘調査成果報告会

平成29年2月18日（土）

資　料　1

◆掲載遺跡

西浦遺跡（石巻町）……鈴木正貴
東屋敷・多り畑遺跡（石巻本町）……池本正明
東下地遺跡（石巻本町）……永井宏幸
野添遺跡（石巻本町）……松田　訓

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

にしうら
西浦遺跡

調査面積
6,700 ㎡

調査期間
2006 年 7 月～2007 年 3 月

西浦遺跡は石巻町字西浦に位置します。地形的には、三輪川左岸の河岸段丘北縁部で、標高は約 29m です。なお、三輪川を挟んだ対岸には東屋敷遺跡が所在しています。

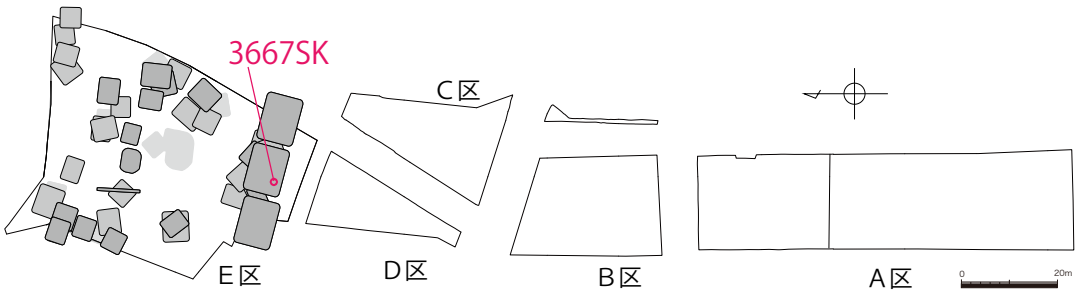
西浦遺跡の調査は、愛知県埋蔵文化財センターにより平成 18 年度に実施され、面積は 6,700 ㎡となります。その結果、縄文時代、弥生時代～古墳時代前期、古墳時代後期～平安時代、平安時代末～近世の遺構を確認しました。

縄文時代の遺構は早期の煙道付炉穴が 1 基検出されたのみで、詳細は明らかではありません。

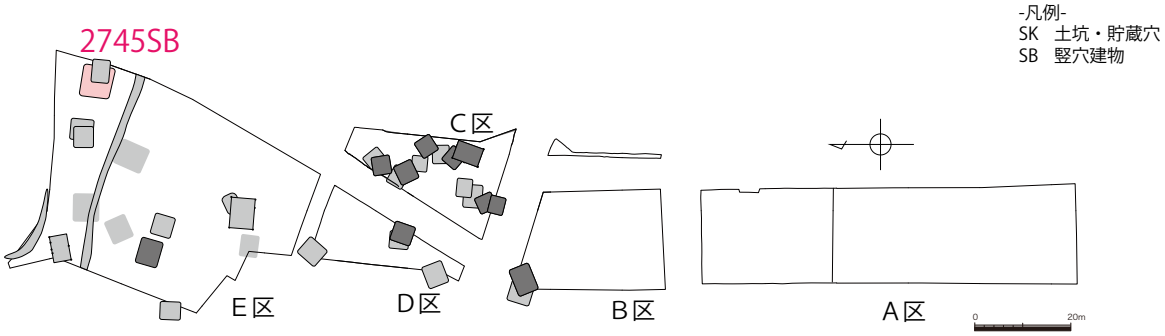
弥生時代～古墳時代前期は、竪穴建物で構成される居住域が河岸段丘北縁部側に、居住域の南側には方形周溝墓・土器棺墓（3667SK）が確認されています。この他、弥生時代の遺物として注目できる遺物には銅鐸舌があります。

古墳時代後期～平安時代では、竪穴建物・掘立柱建物で構成される居住域が確認されました。特徴的となる 2745SB は、飛鳥時代の竪穴建物で、北壁の中央にカマドを持つ構造です。特徴的となるのは遺物の出土状況で、北東隅に土師器の甕と甑が付せた状態で据え置かれ、付近に土製支脚、甑の内部からは須恵器坏も確認されています。当時の竪穴建物での土器類の収納状況であった可能性があります。

平安時代末～近世ではやはり居住域が確認されますが、掘立柱建物のみで構成され、溝による区画を伴います。分布範囲も前段階とはやや異なり、平安時代末～鎌倉時代の遺構は台地端部からやや内奥部に分布し、江戸時代には遺構の分布範囲が調査区全域に拡大しています。



弥生時代から古墳時代前期の主な遺構



古墳時代中期から白鳳期の主な遺構

▲E 区　全景　東から

▲3667SK 検出状況

▲2745SB

▲2745SB　遺物出土状況

▲2745SB　舌出土状況

ひがしやしき
東屋敷遺跡

調査面積	調査期間
4,420 ㎡	2008 年 11 月～ 2009 年 3 月 2009 年 10 月～ 2010 年 2 月 2010 年　5 月～ 8 月

東屋敷遺跡は石巻本町字東屋敷に位置します。地形的には、三輪川右岸の河岸段丘南縁部で、標高は約 28mです。なお、三輪川を挟んだ対岸には西浦遺跡が所在しています。

東屋敷遺跡の調査は、愛知県埋蔵文化財センターにより平成 20～22 年度に実施され、面積は 4,420 ㎡となります。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代終末期、近世の遺構を確認しました。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、弥生時代後期～古墳時代初頭では竪穴建物で構成される居住域を確認しました。環濠や墓域などは確認されていません。

古墳時代終末期の遺構・遺物は前段階とはやや異なり、台地端部からやや内奥部となる調査区北側（10A 区）の狭い範囲で確認されています。さらに北側には神田川に向けて流れる小河川がありますが、この小河川の南側の緩斜面に遺構の広がりが想定できます。108SI・167SI・168SI・169SI はやや不整形ですが、竪穴建物と思われますので、小規模な居住域であったのでしょう。

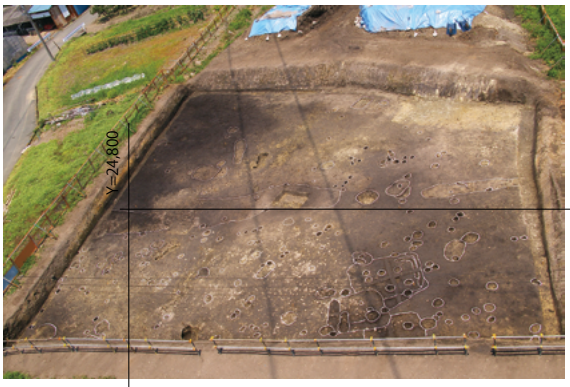
近世の遺構は調査区のほぼ全域に溝による地割りが確認できます。溝の主軸の差を時期差と仮定すると、大まかに三段階に区分できるのかもしれません。なお、09A 区の北側には掘立柱建物が存在しますので、この部分に屋敷地が形成されるものと考えられます。

なお、この他に、縄文時代草創期頃の尖頭器が 1 点出土しています。

▲09区全景　北東より

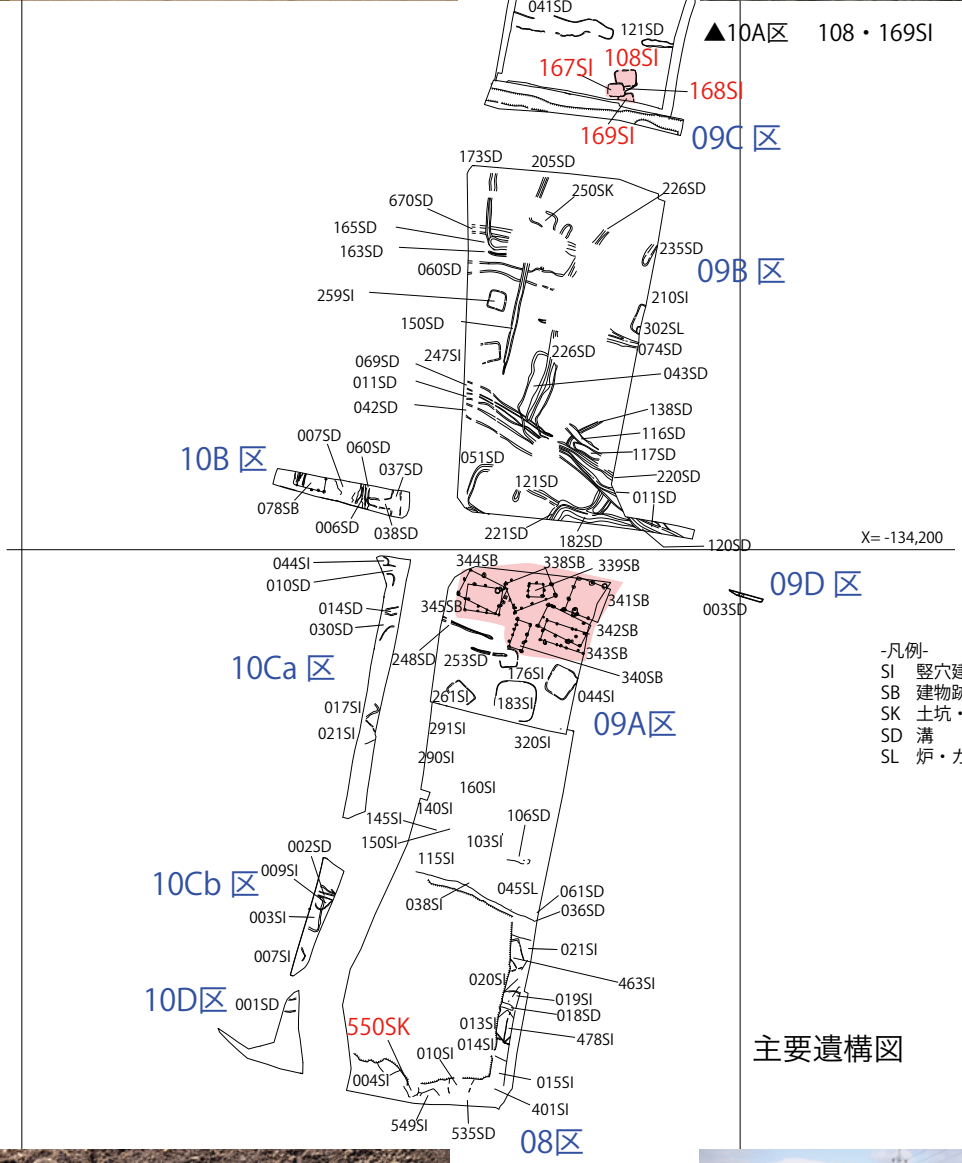
▲09区　作業風景

▲平成22年7月10日　地元説明会



▲10A区

▲10A区　108・169SI



-凡例-
SI　竪穴建物
SB　建物跡（竪穴建物以外）
SK　土坑・貯蔵穴
SD　溝
SL　炉・カマド

主要遺構図

▲紡錘車出土状況　（08区　550SK）

▲09A区　弥生時代後期～古墳時代初頭の居住域

多り畑遺跡（たばた）

調査面積
1,440 ㎡

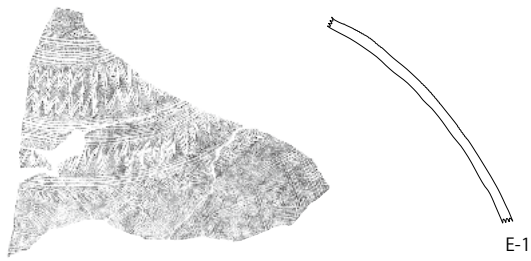
調査期間
2010 年　5 月
2010 年 10 月～ 2011 年 2 月

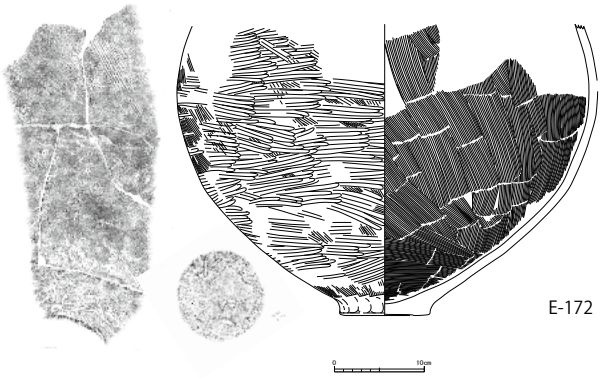
多り畑遺跡は石巻町字札辻に位置します。地形的には、神田川の河岸段丘の北縁部で、標高は約 29m です。なお、神田川を挟んだ対岸には東下地遺跡や野添遺跡が所在しています。

多り畑遺跡の調査は愛知県埋蔵文化財センターにより平成 21 年度に実施され、面積は 1,440 ㎡となります。その結果、縄文時代早期、弥生時代後期、古墳時代後期、中・近世の遺構を確認ました。

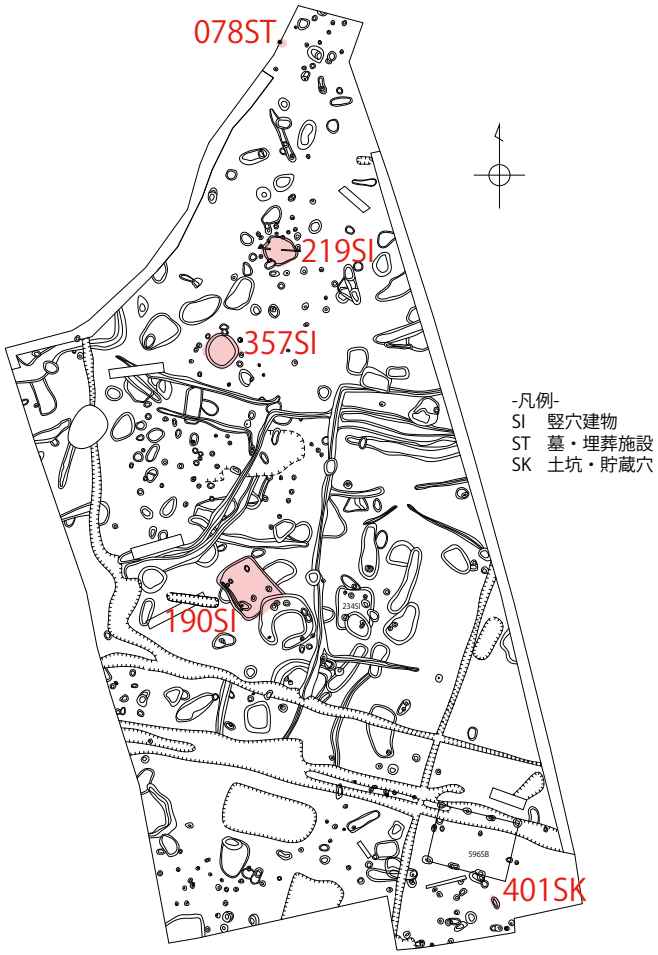
縄文時代早期の遺構・遺物は調査区の北側で、直径 30m程度の範囲に分布しています。このうち代表的な 219SI・357SI は、やや小規模ですが竪穴建物の可能性を持ちます。出土遺物は押型文土器が主体となり、比較的まとまりの良い資料となります。

次に、弥生時代後期では、調査区の北側で弥生時代後期の土器棺が 1 基（078ST）、調査区の中央からは古墳時代後期の竪穴建物が 1 棟（190SI）検出されています。弥生時代後期の土器棺墓は、大型の壺の体部下方に、別個体の壷の大きな破片を蓋としてのせた構造です。





▲078ST出土　弥生時代後期前半　土器棺（172）と棺蓋（171）

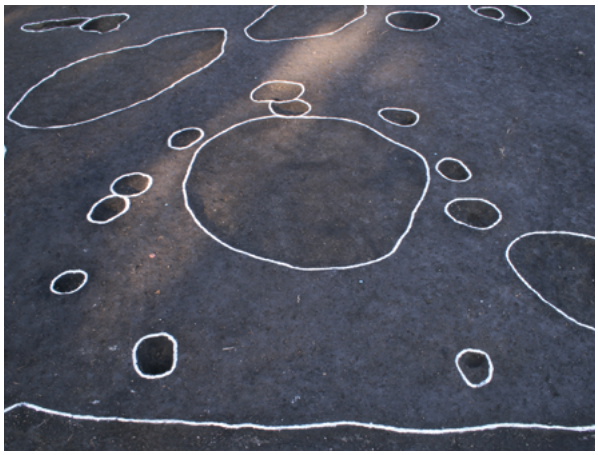


主要遺構図

古墳時代後期では竪穴建物が１棟確認されたのみですが、周辺の遺跡からもこの時代の竪穴建物が幾つか報告されておりますので、この時期の小規模な居住域が点在しているのかも知れません。

中・近世では資料が乏しい状況です。中世前期では、調査区の南側に小規模な土坑群が分布しますが、このうち 401SK などからほぼ全形を留める山茶碗が出土しました。また、破片加工が施された山茶碗の底部片が何点か出土しています。近世に入ると、溝による小規模な区画が確認でき、屋敷地が想定できます。

▲078ST出土状況



▲357SI

▲219SI

▲190SI

▲401SI

ひがししもじ
東下地遺跡

調査面積
10,904 ㎡

調査期間
2011 年 5 月～ 2012 年 3 月
2012 年 5 月～ 7 月

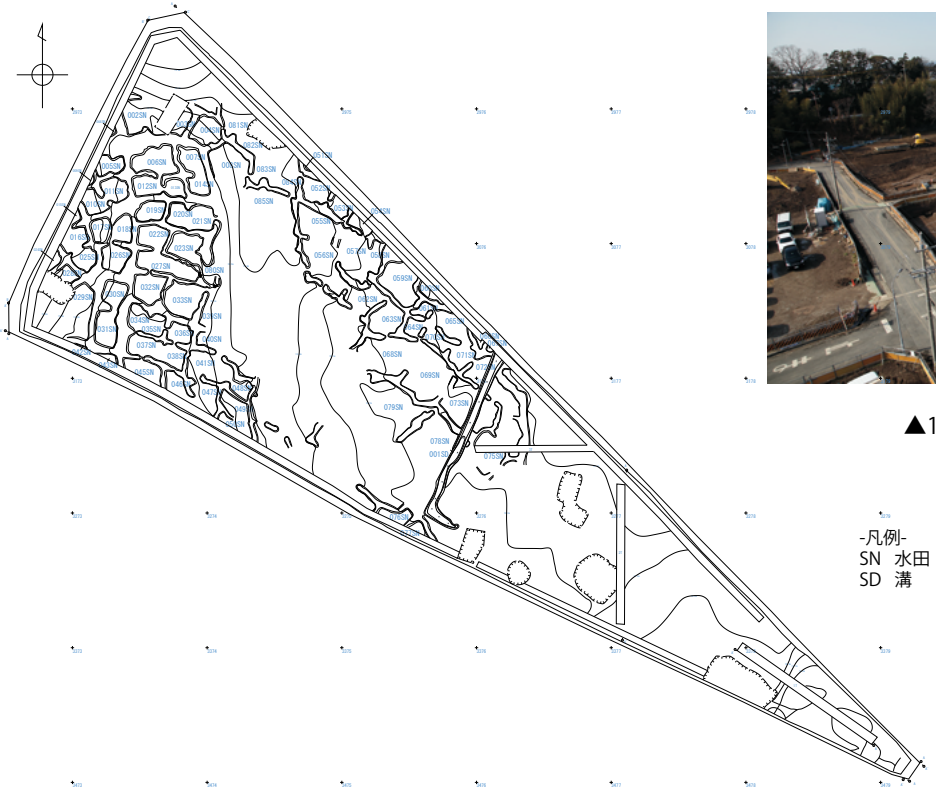
東下地遺跡は石巻本町東下地に位置します。地形的には、神田川左岸の低地部で、標高は約 17m です。なお、遺跡北側の河岸段丘北縁部には野添遺跡、神田川を挟んだ対岸には多り畑遺跡が所在しています。

東下地遺跡の調査は、愛知県埋蔵文化財センターにより平成 23 ～ 24 年度に実施され、面積は 10,904m^2 となります。調査の結果、弥生時代中期末と平安時代末～中世の遺構を確認しました。

弥生時代中期末では、水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出されました。地形に沿う溝の両側に 10 ㎡前後の小区画水田が展開する様子がうかがえます。

平安時代末～中世では、主に鎌倉時代を中心とする遺構群が特徴的となります。蛇行する河川跡（454SX）から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出されており、河川右岸に集石墓や土壙などが重複する墓地や柱穴群が展開しています。なお、注目したい遺構に 608ST があります。この遺構は集石を伴う長径 1 m の墓になります。やや北寄りに短刀が一振り、山茶碗、小皿などが集中して出土しています。一方、出土遺物で特徴的となるのは、山茶碗の底部を中心とした「二次加工のある山茶碗」で、454SX などから多数出土しており、東下地遺跡を特徴付ける出土遺物となっています。

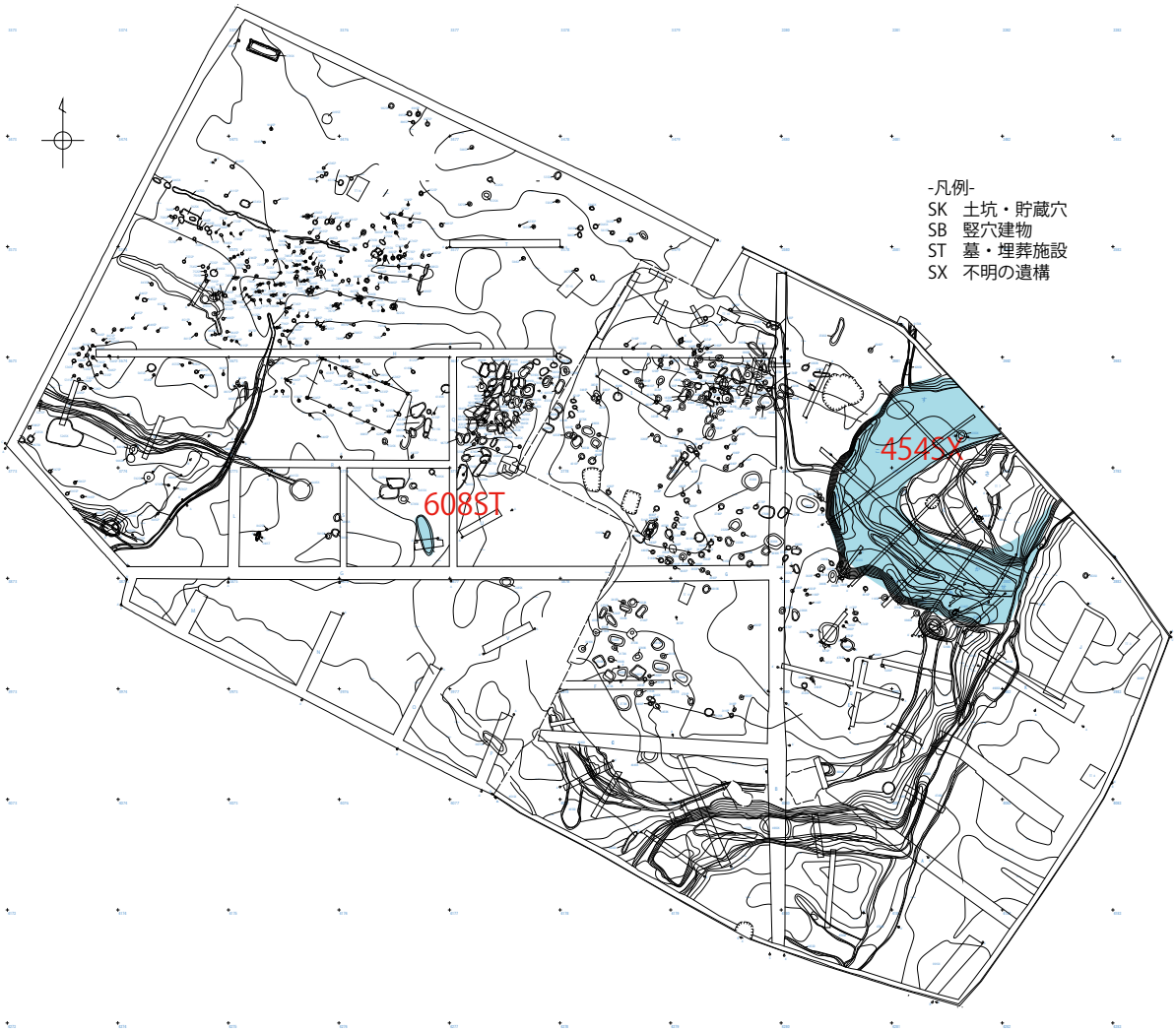
▲11C・D 区 全景　南東から



▲11D 区 2 面　遺構図

▲11A 区 454SX

▲11A 区 454SX



▲11A 区　遺構図

▲11A 区 608ST

▲11A 区 608ST 出土遺物

のぞえ
野添遺跡

調査面積
2,000 ㎡

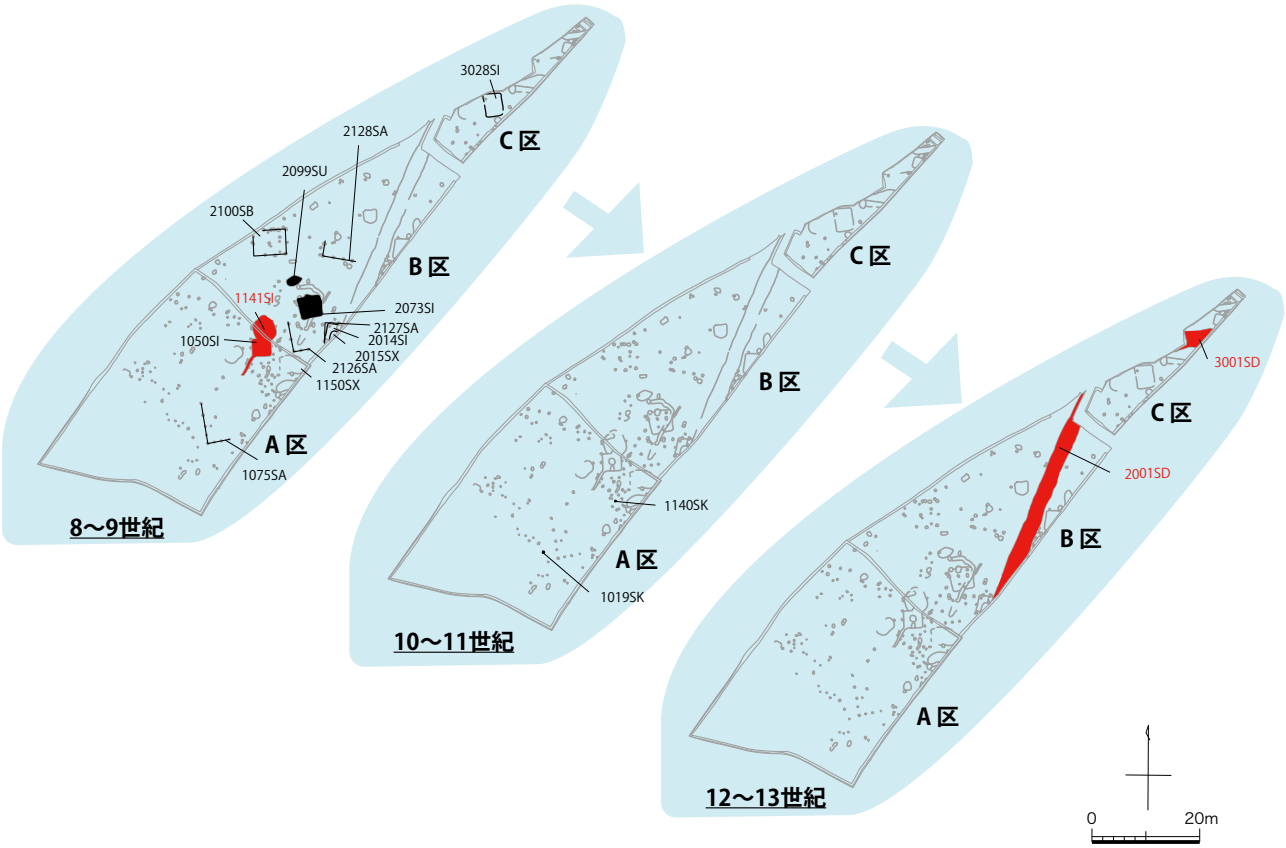
調査期間
2013 年 11 月～ 2014 年 3 月

野添遺跡は石巻本町西下地に位置します。地形的には、神田川右岸の河岸段丘の南縁部で、標高は約28mです。なお、遺跡の南側の神田川沿いの低地には東下地遺跡、神田川を挟んだ対岸には多り畑遺跡が所在しています。

野添遺跡の調査は、愛知県埋蔵文化財センターにより平成 25 年度に実施され、面積は 2000 ㎡となります。その結果、古墳時代後期～平安時代初期、中世の遺構を確認ました。

古墳時代後期～平安時代初期の遺構は竪穴建物・掘立柱建物で構成される居住域が確認されました。竪穴建物には北壁にカマドと思われる焼土、袖の基底部が確認できるものも検出されています。注目したい出土遺物には 8 世紀と考えられる 1141SI から出土した鉄製U字形刃先があります。木製の農工具の先端部分に装着する鉄の刃先ですが、野添遺跡の資料は一般的なサイズよりやや小さい事から、実用品ではない可能性も指摘されています。

中世の遺構は平安時代末～鎌倉時代に掘削された大溝が検出されています。具体的には、B 区の 2001SD（南北方向）と、C 区の 3001SD（東西方向）で、これらは、幅や、深さ、断面の形態、埋めている土の様子などが一致しているため、同時期に掘削された関連する遺構である可能性が高いと考えられています。調査区は上面が削平を受けており、建物などは確認されていませんが、これらの溝により区画された居住域が想定されています。



主要遺構変遷図

▲B区　遠景（東から）

▲1141SI

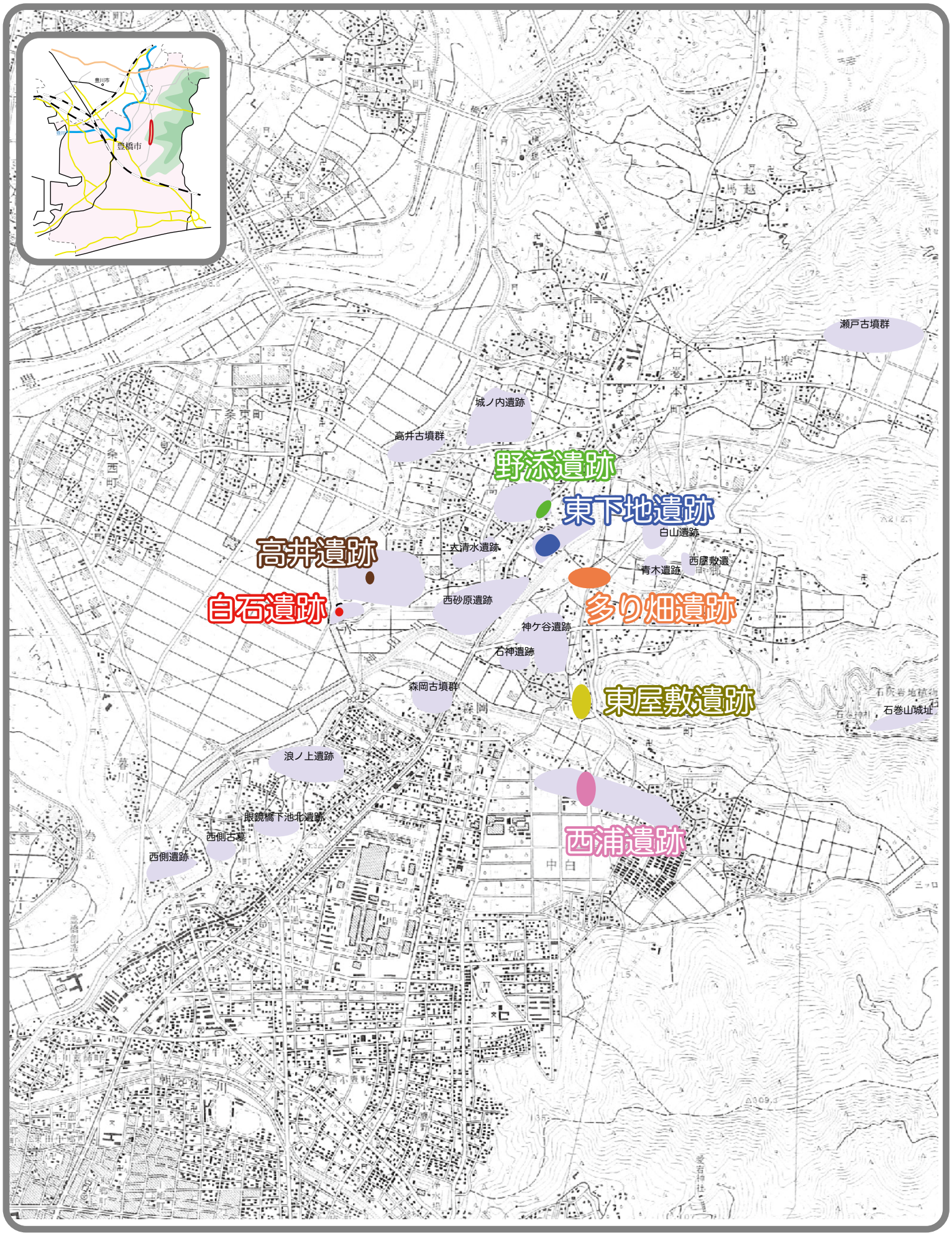
▲1141SIから出土した鉄製U字形刃先

▲2001SD

▲3001SD

▲20001SDの遺物出土状況

東三河環状線関連の発掘調査遺跡の位置



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」を改変